

2018年(平成30年)

第129号

(9月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

比叡山宗教サミット 31 周年「世界平和祈りの集い」

8月4日、比叡山宗教サミット31周年「世界平和祈りの集い」(主催：天台宗国際平和宗教協力協会)が天台宗総本山・比叡山延暦寺の一隅を照らす会館広場で行われ、内外の宗教指導者など約900名が参集し、京都教会からも約70名が参加しました。

晴天のもと、式典は杜多道雄・天台宗宗務総長の開式の辞に始まり、「開経偈」「般若心経」「回向文」の読誦に次いで、森川宏映・第二百五十七世天台座主が平和祈願文を奏上しました。森川座主は、現代社会が多様性を認めず、弱者に配慮することなく、常に自分の我意を通したものが正しいという風潮がある中で、「私どもが取り戻すべきは、伝教大師がお示しになられた『己(おのれ)を忘れて他を利するは慈悲の極みなり』との『一隅を照らす』精神である」と強調。その上で、「恒久平和実現のために祈りを捧げ、一層努力することを謹んで誓います」と述べられました。

その後、仏教、キリスト教、イスラーム、神道、教派神道、新宗教などの代表者が登壇。「平和の鐘」の音に合わせて祈りを捧げました。



続いて、バチカン諸宗教対話評議会議長の故ジャン・ルイ・トーラン枢機卿、世界仏教徒連盟(WFB)のパン・ワナメティー会長による「平和メッセージ」が代読され、2人の青少年代表が『平和への思い』と題して作文を朗読。

そのうちの一人、京都教会の西田友希乃さん(17歳)は「戦争を体験したことのない自分たちも、現代に残された資料館や語り継がれる体験談や映像で、その悲惨さが想像できる。しかし、今は戦争ロボットが開発されており、平和のために自分の無力さを感じたが、教会の『一食(いちじき)を捧げる運動』や『ユニセフ街頭募金』に参加した中で、外国の方々からの寄付があり、人の思いやりが国境を超えたと感じた」と発表しました。そして「周りに優しさを与えられる人になれるよう、自分に出来る小さなことから実行していきたい」と結びました。



最後に、「比叡山メッセージ」が読み上げられ、参集者全員で「平和の合い言葉」を唱和しました。

今、京都市内ではホテルなどの宿泊施設の建設ラッシュです。その恩恵(?)もあつてか、宿泊施設の開発に伴う、埋蔵文化財の発掘調査が急増しました▼平安京の大路の遺構や室町時代の商家の跡などが見つかっています。これにより、京都の歴史を知ることができそうです▼長く「幻の都」とされていた長岡京が発見されたのは、60年ほど前のことです。西京高校の教師であった中山修一氏の情熱と行動があったからです▼中山氏は東海道線近くの田んぼの大きさが自分の周りにある田畑と違うことに気づきました。それは条坊制のなごりではないかと考えたそうです▼湿地帯に見えた場所を、古図面と重ね合わせると、そこが長岡京の一点と合致することが分かったのです。それがヒントになりました▼私たちは、数え切れない人たちが作った歴史の上にいることを改めて感じさせられます。祖先を敬うことの大切さにも通じることでしょう。

時事刻々

平成30年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

今月のことば ～あらゆる「いのち」に奉仕する～ 洛叡支部 細見郁子

佼成 9 月号の会長先生のご法話は、「あらゆる『いのち』に奉仕する」です。

私は現在、少年部育成責任者のお役を頂いております。そのお陰さまで、我が子たちも少年部の活動に積極的に参加し、有難い経験・体験をさせて頂いております。今月のご法話を拝読させて頂き、私が先月体験して気付かせて頂いた事そのものだと感じました。

8月4日、5日に少年部の活動として教会で1泊2日の練成を行いました。「ニコニコキッズ・サマーフェスタ」と題し、子供達が友達を作りながらご法を学び実践できる事を願い、毎年行っています。今回私は、実行委員の1人として活動内容の企画を提案させて頂き、準備や進行などを務めさせて頂きました。

今まで、少年部長さんにご苦勞をおかけしていた事を知り、多くの方のお力添えを頂いていた事に改めて気付かせて頂きました。

この2日間、教会を使わせて頂いた事、温かく美味しい食事を作って頂いた事、たくさんの子供達に参加して頂いた事、その為に親御さんやお手取り下さった方のお力添えを頂いた事、本当に多くの方々の支えを頂き、これらもすべてみ仏さま、開祖さまのお陰さまでと実感し、感謝の気持ちでいっぱいでした。

お役者の皆さんも、心をひとつにして子供達の為に一生懸命取り組んで下さり、最後のあいさつでは涙と共に、いっぱいの感謝の気持ちを子供たちに伝えて下さいました。

会長先生のご法話の中の「感謝し、仕える」そして、「お役を素直に受け止めて楽しくつとめる～正しい命の使い方～」は、まさにこの事だと思いました。お役を通して実践させて頂けたのだと感謝しています。仕事でもお役でも、必ず多くの支えがあると思います。

主人、家族、職場の方々、サンガの皆さん…。自分と触れている人、物に感謝し、また働ける自分を守って下さるみ仏さまやご先祖様に感謝し、素直に喜びを持ってお仕えしたいと思います。またご法話の中で「正見」が全ての基本と教えて頂きました。

先日、友人からこんな事を聞かせて頂きました。友人がセブ島でストリートチルドレンと交流した時に感じた事で、「日本の子供達は、セブ島の貧しい子供達と比べて日々生活する事は難しくないし困ることも無い。けれど、生きづらさを感じる。

反対にセブの子供たちは、毎日食べる事や寝る事に必死で大変な思いをしているけれど、心は豊かで大らかだった」と話してくれました。

私も、確かにそうかもしれないなと思いました。自分と違った意見や人に対し、受け止める事や認める事が出来なかったり、自分の価値観で物事を判断してしまい、子供たちについて自分の考えを押しつけようとしてしまっています。

ご法話の中で「つねに正見から外れないようしなければならぬ」と言われています。何事も実践する為には、全て公平で仏様のようにありのままに物事を見て受け止める事なのだと思います。

しかし、それはとても難しい事です。なので、日々の生活において、素直に受け入れ実践する事なのだと思います。

目の前の事、物、人にまず手を合わせて感謝する。これが、あらゆる「いのち」に奉仕する事なのだと思います。

いつも手を合わせて感謝し、正しい目と素直な心で、日々お仕えさせて頂きたいと思います。

合掌

ニコニコキッズ少年部サマーフェスタ in 京都教会

8月4～5日、「ニコニコキッズ・サマーフェスタ」を開催しました。二日間で幼児12名、少年部員27名、中学生以上の青年部10名、一般30余名の約80名の参加しました。企画段階から子ども達が参加し、「マインクラフト

という仮想空間ゲームを実際にしてみたら面白い！」とのアイデアから、地域の方々のご協力を得て教会体育室に約200個の段ボールや、



多数のトイレットペーパーの芯、ペットボトルなどの廃品を集めて2つの家を創りあげました。ビニールテープで屋根を作ったり、窓や、玄関のドア、ピンポンや電灯など、実にリアルな出来映えです。

2日目は、自分たちで創りあげた家を壊し、ゴミを分別し、集積場まで運ぶ。体育室のモップかけをし、使った場所や物を自分達で片付けることも体験し、学びました。佼成少年少女の誓い、三つの実践をこの2日間で取り組めた子にシールを貼ってポイントをため、閉講式にメダルを授与するとのアイデアも実現させました。育成責任者さんが力をあわせて子ども達をサポートし、子ども達の発想から大人が学ぶ企画となりました。笑顔と笑い声が咲き誇る夏の思い出をありがとうございました。

戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日式典 ～命の尊さをかみしめ、平和の心で～

8月15日、「戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日式典」が京都教会法座席で開催され、多くの会員が参拝しました。今回の式典は青年部を中心に企画され、開式のあと、黙祷、命についての発表、戦争についての映像、平和への思いの作文発表、法座、献鶴の儀、読経供養、佐藤教会長お言葉と続きました。



命についての発表では、2名の会員が発表。ひとりには以前の看護師から助産師に変わり、今までは人の最後の手助けをしていたが、これからは決して死なせてはいけなさと命の尊さを実感しながら、中絶を希望される夫婦に出会い、葛藤した気持ちを述べられました。もうひとり孫娘が学校の宿題で戦争経験を記録しに家に来られたことを通して、自身の経験を振り返り、小学4年生で終戦を迎えたことを述べられました。戦争についての映像では、以前民間放送で放映され

たものを編集して上映。94歳旧日本兵の証言として、中国戦線、沖縄戦の2つの戦場の真実を述べられたもので、沖縄では被害兵士、中国では加害兵士となったことを証言されました。中国で兵士たちがしてきたことをありのままに伝えており、戦場では人間が人間以下になってしまうと悲惨な状況が上映されました。

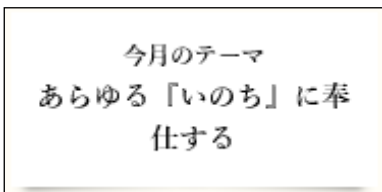
佐藤教会長はお言葉の中で2名の発表にふれ、卵子・精子の出会いの難しさ、精子の動きはもともと人助けする仕組みになっていること等を紹介。稀有なことであると強調されました。また、京都が原爆投下の第一候補になっていたこと、候補地として、4.8キロ四方の市街地であること、昭和20年8月当時に爆撃被害がないこと、原爆の威力が測定しやすいことなど、当時のその条件を述べ、梅小路蒸気機関車館のターンテーブルが投下目標だったと紹介しました。

その後、米国内に京都への投下は止めるべきだと進言されたのは、京都が生きた宗教の都市だったのも要因の一つだと話し、私たちは平和のためにご供養を捧げながら、さまざまな宗教を信仰されている方々とも協力し合い、平和の心で正しい務め、正しい行いをしていきたいと結びました。

本部ホームページが刷新

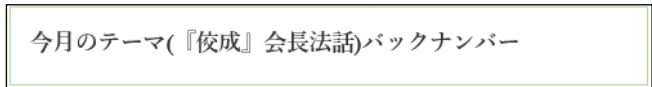
4月8日より本部ホームページが刷新されました。
(<http://www.kosei-kai.or.jp/>)

トップページの「今月のテーマ」からその月の会長先生の法話を拝見することができます。



9月は「あらゆる「いのち」に奉仕する」です。これはスマートフォンからも閲覧可能です。

過去の法話はトップページ会員ポシエットの「お役立ちツール」から「佼成（会長法話）バックナンバー」をクリックすることで見る事が出来ます。



日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

今年から始まる新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【三人寄れば文殊の知恵（さんにんよればもんじゅのちえ）】
「文殊」は文殊菩薩のことで、知恵をつかさどる菩薩のこと。文殊菩薩のようなすぐれた知恵を意味する。
ひとりではなかなかよい考えが浮かばないのが凡人のつらいところ。しかし、三人の知恵を集めれば、きっとすばらしい考えが生まれる、よい結果が得られる

という意味のことわざ。
同じような意味のことわざに、「三人寄れば師匠の出来」というものもある。
ここでいう三人とは、複数の人間、皆で、という意味。いくつかの考えを集めることで、客観的な判断ができるということです。
（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- ・祖父母の似顔絵
- ・もみじ等、秋の花の絵

庭 野 日 敬 開 祖 法 話 集

今月はお彼岸の月です。彼岸を迎えるにあたり、「先祖供養と親孝行」について、庭野開祖の法話から学んでみたいと思います。
(編集部)

【生かされている恩返し】

仏教の教えの基本が、すべての存在は他との関係(縁)なしにはありえない、という縁起観であることは、みなさんもよくご存じのとおりです。その教えをどう実践に移していくかです。

まず、自分が今日一日を無事に過ごせるのはだれのお陰であるのか、どれだけの人のおかげをいただいているか、その縁起を知ることが報恩行の出発点です。

私たちは仕事が順調に進んでいるときには、すべて自分の力、自分の努力の結果だと思い込んで得意になっているのですが、それが、どれだけ多くの人のおかげによってなっているか、毎日、振り返ってみる習慣をつけてしまうことが大切です。朝夕の經典読誦のご供養は、その行の一つなのです。

いつも、まわりの人たちへの感謝を忘れずに、その感謝の気持ちを素直に表わしていく生き方と、自分を過信して得意になったり、努力が報われないと恨んだりする生き方とでは、天地の開きが出てしまいます。

先祖供養も、親孝行も、菩薩行も、すべて今日の自分をあらしめているものへの恩返しの行なのです。

【亡き母への供養】

私が、まだ牛乳屋の商売をしながら布教に歩いていたところのことです。

亡くなった母の命日が六月二十二日で、その日は、わが家の命日にも当たっていましたので、毎月、「この日は特別にしっかりとご供養させてもらおう」と思っているのですが、その日にかぎって、あの信者さん、この信者さんから声がかかって、真夜中まで飛び回らなくてはならなくなるのです。

恩師の新井先生にそのことをお話しすると、「庭野さん。お経をあげるだけが供養じゃないんだよ。苦しん

でいる人をお救いするために飛び歩く供養のほうが尊いんです。お母さんやご先祖さまが、どれだけ安心し、喜んでくださっていることか」とおっしゃってくださいました。

それが法華経を身で読む供養なのだと、そのとき新井先生に教えていただいたのです。

そう聞かせていただいてから、毎日、休む間もなく人さまのために駆け回らせてもらっていると、母のうれしそうな顔が目の前に見えてくるような気がしたものでした。

【人間関係の大もと】

自分を産み育ててくれた親の恩に比べられるものは、ほかにありません。それを、ごくあたりまえのことのように考えたり、うっかりすると、親を恨んだりしている人がいるのです。

しかし、心の奥の奥では、だれしも親の恩を感じない人などいないはずです。何か、その気持ちを素直に表に出すことを妨げているのです。この、親の恩をかみしめることが信仰の出発点であり、幸せへの出発点だといってもいいでしょう。

親に心から感謝できるようになると、夫婦同士でも、互いに感謝できるようになってきます。子どもやご近所の人と対するときも、また会社の上司や仲間を見る目も違ってきます。人間としての軌道に乗ってくるわけです。

親への感謝ができなくて、ほかのだれともうまくいくはずがありません。親への感謝が人間への信頼感を生み、それが社会の絆にふくらんでいくのです。

最近、アメリカでも家族が見直されているそうです。家庭がくずれると社会の秩序までバラバラになってしまう、という苦い体験からの知恵だと思うのです。

(つづく)

9～10月の主な教会行事

9月1日(土)	9:00～	朔日参り
4日(火)	9:00～	開祖さまご命日
10日(月)	9:00～	脇祖さま報恩会
15日(土)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
23日(日)	9:00～	秋季彼岸会
10月1日(月)	9:00～	朔日参り
4日(木)	9:00～	開祖さま入寂会
10日(水)	9:00～	脇祖さまご命日
13日(土)	9:00～	日蓮聖人遠忌法要
15日(月)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

山口県で行方不明となった2歳児が、大分県から駆けつけた尾畠春夫さんによって発見されたことは、記憶にも新しいことです。今やスーパーボランティアと呼ばれ、多くのマスコミが取材を行っていました。軽ワゴン車に食料や水、寝袋を積み込み、相手側から一切、力を借りないことが信条で「自己完結するのが真のボランティアだ」と尾畠さんは語られます。「もちろん対価や物品、飲食、これらは一切いただきません。決して“してやる”ではなく、“させていただく”の気持ちで私は臨んでいます、とも。見習いたいものです。